

広島・海田地域

国道2号

31号

54号

ヒヤリまっぷ

みなさんのヒヤリ・ハット体験による交通安全マップ

CAUTION

国土交通省中国地方整備局・広島国道事務所

?? 「ヒヤリまっぷ」って何 ??

ヒヤリまっぷ作成の目的

- 国道を管理する国土交通省では、誰もが安全に安心して利用できる国道を目指し、交通事故を抑制するための交通安全対策に取組んでいます。
- 今後さらに進める交通安全対策に役立てることを目的として、管理する国道を対象に、日頃から道路を利用されている地域のみなさまから「ヒヤリ・ハット体験」についてお問い合わせするアンケート調査を実施しました。

「ヒヤリ・ハット体験」とは、

交通事故には至らないものの、一歩間違えれば交通事故になる可能性が高かった体験のことです。

- 今回の調査で皆様からお寄せいただいた「ヒヤリ・ハット体験」に関する情報は、今後の交通安全対策を進める際の参考とさせていただきます。また、地域の皆様の安全な道路利用にもご活用頂けると「ヒヤリまっぷ」としてとりまとめました。

ヒヤリまっぷの活用方法

- お出かけ前、目的地までのルート上の「ヒヤリ・ハット箇所」の有無や位置をご確認下さい。
- 「ヒヤリ・ハット箇所」を通行する際は、「ヒヤリ・ハット体験」を参考に十分注意して走行して下さい。
- 地域や職場、学校などで交通安全活動等を行う際、この「ヒヤリまっぷ」の情報を関係者の間で共有することにより、交通安全の向上に役立てて下さい。

ヒヤリまっぷ作成にあたってのアンケートにご協力いただいたみなさま

広島国道事務所管内を対象に、交通安全（ヒヤリ・ハット体験）アンケート調査を実施し、その結果、以下のとおり合計1,813名の方から、貴重な体験情報やご意見をいただきました。

ご協力いただいた方に、改めて御礼申し上げます。【アンケート実施期間：平成20年8月～10月】

- 運転免許更新者の方々
- プロドライバーの方々（トラック、バス、タクシー、JAF、郵便配達などのドライバー）
- 中学校、高校の生徒の方々
- 公共施設等の利用者の方々

ヒヤリまっぷ・アンケートに関するお問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局 広島国道事務所

〒734-0022 広島市南区東区2丁目13-28

TEL：(082) 281-4131（代表） FAX：(082) 286-7897

E-mail：hikokoku@cgr.mlit.go.jp

広島県下の交通事故状況 1

交通事故発生数・負傷者数は、減少傾向にあるものの、10年前よりも高いレベルにあります。

- 交通事故による死者数は、近年の交通安全対策の効果もあって、過去10年間で概ね半減しています。
- 事故発生件数、負傷者数についても近年減少傾向にありますが、10年前の数値と比べると、まだ高いレベルにあります。
- 過去10年間の広島県内での事故発生状況（事故発生件数、負傷者数、死者数）の推移は、全国とほぼ同じ傾向を示しています。

広島県の交通事故発生状況の推移

※事故発生件数：死傷事故の件数

事故発生件数

負傷者数

死者数

事故発生件数

負傷者数

死者数

道路別では、国道2号に事故が集中する傾向が見られます。

- 広島県全体の事故のうち、約4割が国道2号で発生しています。また、負傷者数で見ても約4割、死者数では約35%を占めています。
- 延長10kmあたりで見ても、国道2号で事故が多発する傾向が見られ、次いで国道31号や54号で多く発生しています。

道路別の事故発生状況

延長10kmあたり発生件数

延長10kmあたり負傷者数

延長10kmあたり死者数

広島県下の交通事故状況 2

事故発生場所別では、交差点における事故が全体の約4割を占めています。また、追突や出会い頭の車両相互の事故が大半を占めています。

- 事故発生箇所別では、交差点における発生件数が43%を占めています。
- 事故類型別では、車両相互の事故が最も多く全体の86%を占めており、このうち、追突や出会い頭の事故が特に多く発生しています。また、死者数については、人対車両や車両相互の事故の割合も高くなっています。

道路形状別事故件数

事故類型別発生状況

車両相互事故の内訳

自動車運転中の死者が全体の約3割を占め、前方不注意による事故が多発しています。また、横断中の高齢者事故が多発しています。

- 状態別の死者数の内訳は、自動車運転中が最も多く32%を占め、歩行者がこれに次いでいます。
- 法令違反別では、前方不注意による事故が最も多く発生しています。
- 全死者数のうちの47%が高齢者であり、そのうち横断中の事故が多くなっています。

状態別の死者数と法令違反別死者数

年齢層別死者数と高齢者死者の内訳

広島・海田地域における交通事故状況

都心部を中心に事故が多発しており、特に広島市内の事故の集中が顕著です。

- 広島県内の死傷事故は、広島、福山の都心部を中心に多発する傾向が見られ、特に広島市内の国道2号や国道54号では、死傷事故率の高い区間が多く見られます。

広島県内における死傷事故

資料：国土交通省 中国地方整備局

広島・海田地域の直轄国道における事故多発箇所（死傷事故率の高い交差点）

- 広島・海田地域の直轄国道における死傷事故率を見ると、最も高い箇所は、国道2号「広島スタジアム入口交差点」の913（件/台/年）となっています。
- 上位5位の交差点は、いずれも交通量の多い広島市内の幹線道路に位置する事故危険箇所となっています。

第1位

第2位

第3位

第4位

第5位

みなさまのヒヤリ・ハット体験を参考に交通事故対策を進めます！

1件の重大事故発生の背景には、その何百倍ものヒヤリ・ハットが！

- 広島県内では、132人の死亡事故（平成19年実績）を含む重大事故が発生していますが、一般的に、重大事故の発生件数は交通事故全体の中では氷山の一角に過ぎず、その背景には、何十倍もの軽微事故と、何百倍ものヒヤリ・ハット体験が発生しているといわれています。

※ハザードマップの法則

事故多発箇所主体の対策から、ヒヤリ・ハット箇所にも着目した対策に！

これまでの交通安全対策は、死傷事故が多発している箇所（事故率の高い箇所）に着目した対策が主体でした。これらの対策の結果、死者数の減少などの事故削減効果が現れつつあります。しかしながら、道路利用者が危険を感じていても事故が発生していない箇所については、危険箇所として着目されていないという問題がありました。

重大事故を未然に防ぐには、日頃から不安な状態や行為を認識し、ヒヤリ・ハットの段階で地道に対策を考え、実行していくことが重要です。そのため、今後の交通安全対策では、事故多発箇所の対策に加えて、ヒヤリ・ハット箇所に着目した対策もあわせて進めていく予定です。

これまでの交通安全対策の着目点

事故多発箇所主体から、ヒヤリ・ハットに着目

これから交通安全対策の着目点

地域のみなさまと共に交通安全対策を検討！

- これまで、交通安全対策の検討に際し、現地検討会を開催するなど、地域のみなさまのご意見を対策に反映するための機会を設けてきました。
- 今後も、交通事故（死傷事故）のさらなる削減に向けた対策を迅速に進めていく予定ですが、地域の実情に合わせた適切な対策を講ずるためには、ヒヤリ・ハット情報の提供など地域のみなさまのご協力が不可欠となります。
- 誰もが安全に安心して利用できる道路環境の実現に向け、みなさまのご協力をお願いいたします。

3-22



みなさんのヒヤリ・ハット体験による交通安全マップ

CAUTION

国土交通省中国地方整備局・広島国道事務所

?? 「ヒヤリマップ」って何 ??

ヒヤリマップ作成の目的

- 国道を管理する国・交通省では、誰もが安全に安心して利用できる国道を目指し、交通事故を抑制するための交通安全対策に取り組んでいます。
- 今後さらに進める交通安全対策に役立てることを目的として、管理する国道を対象に、日頃から道路を利用されている地域のみなさまから「ヒヤリ・ハット体験」についてお伺いするアンケート調査を実施しました。
- 「ヒヤリ・ハット体験」とは、交通事故には至らないものの、一歩間違えれば交通事故になる可能性が高かった体験のことです。
- 今回の調査で皆様から寄せいただいた「ヒヤリ・ハット体験」に関する情報は、今後の交通安全対策を進める際の参考とさせていただきます。と、地域の皆様の安全な道路利用にもご活用頂けるよう「ヒヤリマップ」の活用方法をまとめました。

ヒヤリマップの活用方法

- お出かけ前に、目的地までのルート上の「ヒヤリ・ハット箇所」の有無や位置をご確認下さい。
- 「ヒヤリ・ハット箇所」を通行する際は、「ヒヤリ・ハット体験」を参考に十分注意して走行して下さい。
- 地域や職場、学校などで交通安全活動等を行う際、この「ヒヤリマップ」の情報を関係者の間で共有することにより、交通安全の向上に役立てて下さい。

ヒヤリマップが作成にあたってのアンケートにご協力いただいたみなさま

広島国道事務所管内を対象に、交通安全（ヒヤリ・ハット体験）アンケート調査を実施し、その結果、以下のとおり合計 1,813 名の方々から、貴重な体験情報やご意見をいただきました。ご協力いただいた方に、改めて御礼申し上げます。【アンケート実施期間：平成 20 年 8 月～10 月】

- 運転免許更新者の方々 500 名
- プロドライバーの方々（トラック、バス、タクシー、JAF、郵便配達各ドライバー） 297 名
- 中学校、高校の生徒の方々 432 名
- 公共施設等を利用者の方々 584 名

ヒヤリマップ・アンケートに関するお問い合わせ先

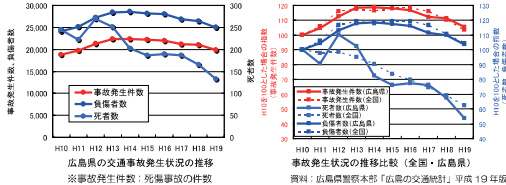
国土交通省 中国地方整備局 広島国道事務所

〒734-0022 広島市南区東雲 2 丁目 13-28
TEL：(082) 281-4131（代表） FAX：(082) 286-7897
E-mail：hirkoku@nogr.mlit.go.jp

広島県下の交通事故状況 1

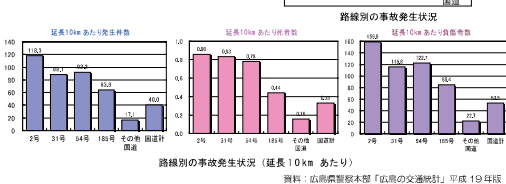
事故発生件数・負傷者数は、減少傾向にあるものの、10 年前よりも高いレベルにあります。

- 交通事故による死者数は、近年の交通安全対策の効果もあって、過去 10 年間で概ね半減しています。
- 事故発生件数[※]、負傷者数についても近年減少傾向にありますが、10 年前の数値と比べると、まだ高いレベルにあります。
- 過去 10 年間の広島県内での事故発生状況（事故発生件数、負傷者数、死者数）の推移は、全国とほぼ同じ傾向を示しています。



路線別では、国道 2 号に事故が集中する傾向が見られます。

- 広島県全体の事故のうち、約 4 割が国道 2 号で発生しています。また、負傷者数で見ても約 4 割、死者数では約 35%を占めています。
- 延長 10km あたりで見ても、国道 2 号で事故が多発する傾向が見られ、次いで国道 31 号や 54 号で多く発生しています。



呉・広地域のヒヤリ・ハット状況 1

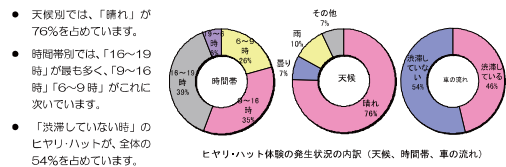
交通安全アンケートをもとに、皆さんから寄せられたヒヤリ・ハット体験の状況を整理すると、以下のとおりとなっています。

約 8 割の方（ほぼ全ての年齢層）がヒヤリ・ハットを体験！

- 交通安全アンケートに回答していた方々の 80%が、ヒヤリ・ハットを体験しています。
- 年齢層別では、30 歳代と 40 歳代がそれぞれ 1 / 4 程度を占めています。が、その他、ほぼ全ての年齢層がヒヤリ・ハット体験しています。

ヒヤリ・ハットの体験状況

ヒヤリ・ハット体験者の年齢構成



ヒヤリ・ハット体験は、自分・相手ともに普通車運転中に多い！

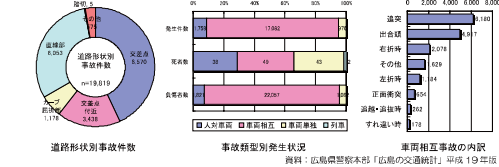
- 自分が普通車を運転中にヒヤリ・ハット体験したケースが過半数（59%）を占めています。
- ヒヤリ・ハット体験した際の相手の交通手段も、全般的に普通車が多いですが、中・大型車と自転車とのヒヤリ・ハットがやや多いことも特徴です。

資料：広島県警察本部「広島県の交通統計」平成 19 年版

広島県下の交通事故状況 2

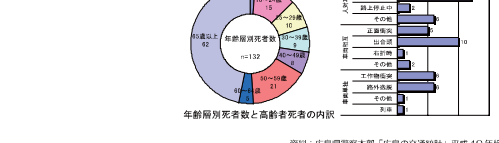
事故発生場所別では、交差点における事故が全体の約 4 割を占めています。また、追突や出会い頭等の車両相互の事故が大半を占めています。

- 事故発生場所別では、交差点における発生件数が 43%を占めています。
- 事故類型別では、車両相互の事故が最も多く全体の 86%を占めており、このうち、追突や出会い頭の事故が特に多く発生しています。また、死者数については、人対車両や車両単独の事故の割合も高くなっています。



自動車運転中の死者が全体の約 3 割を占め、前方不注意による事故が多発しています。また、横断中の高齢者事故が多発しています。

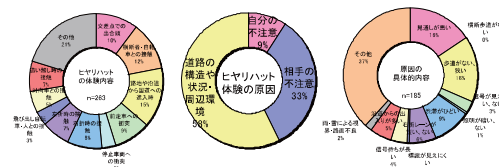
- 状態別の死者数の内訳は、自動車運転中が最も多く 32%を占め、歩行中がこれに次いでいます。
- 法令違反別では、前方不注意による事故が最も多く発生しています。
- 全死者数のうちの 47%が高齢者であり、そのうち横断中の事故が多くなっています。



呉・広地域のヒヤリ・ハット状況 2

「見通しの悪さ」や「歩道の未整備」が原因となって引き起こるヒヤリ・ハットが多い！

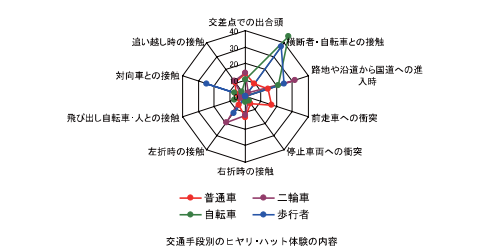
- ヒヤリ・ハットの具体的な内容としては、「路地や沿道から国道への進入時」や「横断者・自転車との接触」などが比較的多く挙げられています。
- ヒヤリ・ハットの原因は、「道路の構造や状況・周辺環境」が過半数（58%）を占めており、その具体的な内容としては「見通しが悪い」「歩道がない・狭い」が多く挙げられています。



ヒヤリ・ハットの具体的な内容

歩行者・自転車とのヒヤリ・ハットは、「横断者・自転車との接触」が特に多い！
二輪車のヒヤリ・ハットは、「国道への進入時」が多い！

- 歩行者・自転車については、「横断者・自転車との接触」のヒヤリ・ハット体験が特に多く挙げられています。
- 二輪車については、「路地や沿道から国道への進入時」のヒヤリ・ハットが多くくなっています。



呉・広地域における交通事故状況

都心部を中心に事故が多発しており、呉市内にも事故の集中する箇所が見られます。

- 広島県内の死傷事故は、広島、福山の都心部を中心に多発する傾向が見られますが、呉市内の国道 185 号でも、死傷事故率の高い区間が見られます。



呉・広地域の直轄国道における事故多発箇所（死傷事故率の高い交差点）

- 呉・広地域の直轄国道における死傷事故率を見ると、最も高い箇所は、国道 185 号「林山トンネル西口交差点」の 1,014（件/万台キロ）となっています。
- 上位 5 位の交差点のうちの大半が、呉市中心部の国道 185 号上の事故危険箇所となっています。



みなさまのヒヤリ・ハット体験を参考に交通事故対策を進めます！

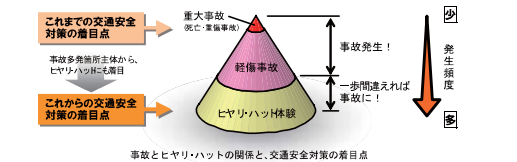
1 件の重大事故発生の背景には、その何百倍ものヒヤリ・ハットが！

- 広島県内では、132 人の死亡事故（平成 19 年実績）を含む重大事故が発生していますが、一般的に、重大事故の発生件数は交通事故全体の中では氷山の一角に過ぎず、その背景には、何十倍もの軽傷事故と、何百倍ものヒヤリ・ハット体験が発生しているといわれています。

※ハザードの法則

事故多発箇所主体の対策から、ヒヤリ・ハット箇所にも着目した対策に！

- これまでの交通安全対策は、死傷事故が多発している箇所（事故率が高い箇所）に着目した対策が主体でした。これらの対策の結果、死者数の減少などの事故削減効果が現れつつあります。しかしながら、道路利用者が危険を感じていても事故が発生していない箇所については、危険箇所として着目されていないという問題がありました。
- 重大事故を未然に防ぐには、日頃から不安な状態や行為を認識し、ヒヤリ・ハットの段階で地道に対策を考え、実行していくことが重要です。そのため、今後の交通安全対策では、事故多発箇所の対策に加えて、ヒヤリ・ハット箇所に着目した対策もあわせて進めていく予定です。



地域のみなさまと共に交通安全対策を検討！

- これまで、交通安全対策の検討に際し、現地検討会を開催するなど、地域のみなさまのご意見を対策に反映するための機会を設けてきました。
- 今後も、交通事故（死傷事故）のさらなる削減に向けた対策を講ずるためには、ヒヤリ・ハット情報の提供など地域のみなさまのご協力不可欠となります。
- 誰もが安全に安心して利用できる道路環境の実現に向け、みなさまのご協力をお願いいたします。



【東広島・竹原地区】

国道 2 号

国道 185 号

国道 375 号

ヒヤリまっぷ

～みなさんから寄せられたヒヤリ・ハット体験を地図にしました～

『ヒヤリ・ハット体験』とは、交通事故になりそうだった体験のことです。



東広島・竹原地域

国道2号

185号

375号

ヒヤリまっぷ

みなさんのヒヤリ・ハット体験による交通安全マップ

CAUTION

歩行者

自動車

国土交通省中国地方整備局・広島国道事務所

？？「ヒヤリまっぷ」って何　？？

ヒヤリまっぷ作成の目的

- 国道を管理する国土交通省では、誰もが安全に安心して利用できる国道を目指し、交通事故を抑制するための交通安全対策に取り組んでいます。
- 今後さらに進める交通安全対策に役立てることを目的として、管理する国道を対象に、日頃から道路を利用されている地域のみなさまから「ヒヤリ・ハット体験」についてお伺いするアンケート調査を実施しました。
- 「ヒヤリ・ハット体験」とは、交通事故には至らないものの、一歩間違えれば交通事故になる可能性が高かった体験のことです。
- 今回の調査で皆様からお寄せいただいた「ヒヤリ・ハット体験」に関する情報は、今後の交通安全対策を進める際の参考とさせていただきます。地域の皆様の安全な道路利用にもご活用頂けるよう「ヒヤリまっぷ」としてとりまとめました。

ヒヤリまっぷの活用方法

- お出かけ前に、目的地までのルート上の「ヒヤリ・ハット箇所」の有無や位置をご確認下さい。
- 「ヒヤリ・ハット箇所」を通行する際は、「ヒヤリ・ハット体験」を参考に十分注意して走行して下さい。
- 地域や職場、学校などで交通安全活動等を行う際、この「ヒヤリまっぷ」の情報を関係者の間で共有することにより、交通安全の向上に役立てて下さい。

ヒヤリまっぷ作成にあたってのアンケートにご協力いただいたみなさま

広島国道事務所管内を対象に、交通安全（ヒヤリ・ハット体験）アンケート調査を実施し、その結果、以下のとおり合計1,813名の方々から、貴重な体験情報やご意見をいただきました。ご協力いただいた方に、改めて御礼申し上げます。【アンケート実施期間：平成20年8月～10月】

- 運転免許更新者の方々

500名

- プロドライバーの方々（トラック、バス、タクシー、JAF、郵便配達などのドライバー）

297名

- 中学校、高校の生徒の方々

432名

- 公共施設等を利用者の方々

584名

ヒヤリまっぷ・アンケートに関するお問い合わせ先

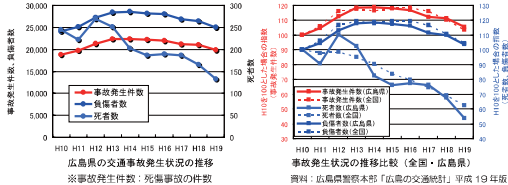
国土交通省中国地方整備局 広島国道事務所

〒734-0022 広島市南区東雲2丁目13-28
TEL：（082）281-4131（代表） FAX：（082）286-7897
E-mail：hirkoku@bgr.mlit.go.jp

広島県下の交通事故状況 1

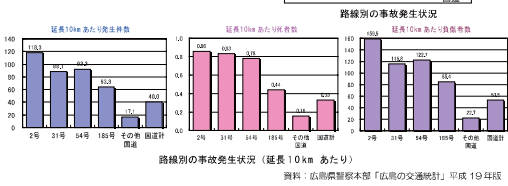
事故発生件数・負傷者数は、減少傾向にあるものの、10年前よりも高いレベルにあります。

- 交通事故による死者数は、近年の交通安全対策の効果もあって、過去10年間で概ね半減しています。
- 事故発生件数[※]、負傷者数についても近年減少傾向にありますが、10年前の数値と比べると、まだ高いレベルにあります。
- 過去10年間の広島県内での事故発生状況（事故発生件数、負傷者数、死者数）の推移は、全国とほぼ同じ傾向を示しています。



路線別では、国道2号に事故が集中する傾向が見られます。

- 広島県全体の事故のうち、約4割が国道2号で発生しています。また、負傷者数で見ても約4割、死者数では約35%を占めています。
- 延長10kmあたりで見ても、国道2号で事故が多発する傾向が見られ、次いで国道31号や54号で多く発生しています。



東広島・竹原地域のヒヤリ・ハット状況 1

交通安全アンケートをもとに、皆さんから寄せられたヒヤリ・ハット体験の状況を整理すると、以下のとおりとなっています。

約8割の方（ほぼ全ての年齢層）がヒヤリ・ハットを体験！

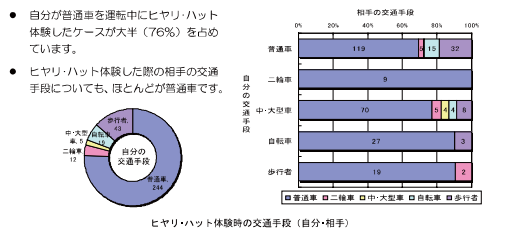
- 交通安全アンケートに回答していた方の86%が、ヒヤリ・ハットを体験しています。
- 年齢層別では、30歳代と40歳代がそれぞれ20%程度を占めています。その他、ほぼ全ての年齢層がヒヤリ・ハット体験しています。

ヒヤリ・ハット体験は、「晴れの日」の「午前中から夕方」、「渋滞していないとき」に集中！

- 天候別では、「晴れ」が71%を占めています。
- 時間帯別では、「6～9時」「9～16時」「16～19時」がほぼ同程度の割合となっています。
- 「渋滞していない」「対向車との接触」や「横断者・自転車との接触」については「追い越し時の接触」や「交差点での合流」のヒヤリ・ハットが、全体の83%を占めています。

ヒヤリ・ハット体験は、自分・相手ともに普通車運転中に多い！

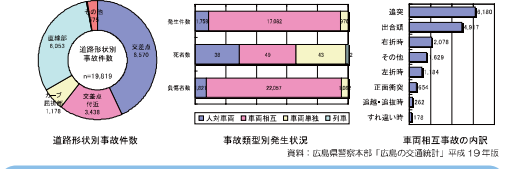
- 自分が普通車を運転中にヒヤリ・ハット体験したケースが大半（76%）を占めています。
- ヒヤリ・ハット体験した際の相手の交通手段についても、ほとんどが普通車です。



広島県下の交通事故状況 2

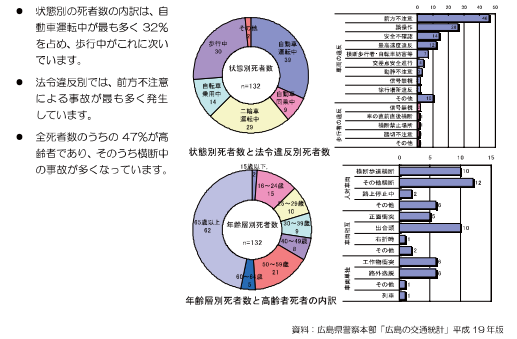
事故発生場所別では、交差点における事故が全体の約4割を占めています。また、追突や合流等の車両相互の事故が大半を占めています。

- 事故発生場所別では、交差点における発生件数が43%を占めています。
- 事故類型別では、車両相互の事故が最も多く全体の86%を占めており、このうち、追突や合流の事故が特に多く発生しています。また、死者数については、人対車両や車両単独の事故の割合も高くなっています。



自動車運転中の死者が全体の約3割を占め、前方不注意による事故が多発しています。また、横断中の高齢者事故が多発しています。

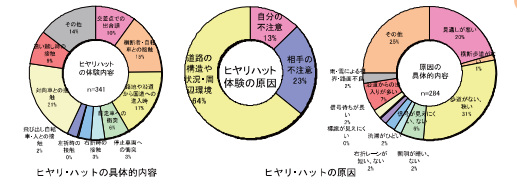
- 状態別の死者数の内訳は、自動車運転中の死者が最も多く32%を占め、歩行中がついでに多いです。
- 法令違反別では、前方不注意による事故が最も多く発生しています。
- 全死者数のうちの47%が高齢者であり、そのうち横断中の事故が多くなっています。



東広島・竹原地域のヒヤリ・ハット状況 2

「歩道の未整備」や「見通しの悪さ」が原因となって引き起こるヒヤリ・ハットが多い！

- ヒヤリ・ハットの具体的な内容としては、「対向車との接触」や「路地や浴槽から国道への進入時」などが多く挙げられています。
- ヒヤリ・ハットの原因は、「道路の構造や状況・周辺環境」が過半数（64%）を占めており、その具体的な方向としては「歩道がない・狭い」「見通しが悪い」が多く挙げられています。



狭い空間を歩行者と自転車が横断することによる「接触」のヒヤリ・ハットが多い！

中・大型車のヒヤリ・ハットは、「対向車との接触」や「右折時の接触」が多い！

- 歩行者については、「対向車との接触」や「横断者・自転車との接触」、また自転車については「追い越し時の接触」や「交差点での合流」のヒヤリ・ハットが多く挙げられています
- 中・大型車のドライバーは、「対向車との接触」や「右折時の接触」のヒヤリ・ハットが多くなっています。

東広島・竹原地域における交通事故状況

都心部を中心に事故が多発していますが、東広島・竹原地域内にも一部事故率の高い箇所が存在します。

- 広島県内の死傷事故は、広島、福山の都心部を中心に多発する傾向が見られます。東広島・竹原地域では、国道2号や国道185号の一部に死傷事故率がやや高い区間が見られます。



東広島・竹原地域の直轄国道における事故多発箇所（死傷事故率の高い交差点）

- 東広島・竹原地域の直轄国道における死傷事故率を見ると、最も高い箇所は、国道185号「竹原市役所南交差点」の724（件/万台キロ）となっています。
- 上位5位の交差点は、殆んどが国道185号上で、全て交差点が事故多発箇所となっている点に特徴があります。



みなさまのヒヤリ・ハット体験を参考に交通事故対策を進めます！

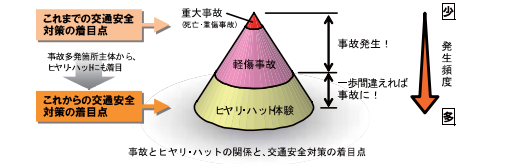
1件の重大事故発生の背景には、その何百倍ものヒヤリ・ハットが！

- 広島県内では、132人の死亡事故（平成19年実績）を含む重大事故が発生していますが、一般的に、重大事故の発生件数は交通事故全体の中では氷山の一角に過ぎず、その背景には、何十倍もの軽傷事故と、何百倍ものヒヤリ・ハット体験が発生しているといわれています。

※ハザードマップの活用

事故多発箇所主体の対策から、ヒヤリ・ハット箇所にも着目した対策に！

- これまでの交通安全対策は、死傷事故が多発している箇所（事故率が高い箇所）に着目した対策が主体で、これらの対策の結果、死者数の減少などの事故削減効果が現れつつあります。しかしながら、道路利用者らが危険を感じていても事故が発生していない箇所については、危険箇所として着目されていないという問題がありました。
- 重大事故を未然に防ぐには、日頃から不安全な状態や行為を認識し、ヒヤリ・ハットの段階で地道に対策を考え、実行していくことが重要です。そのため、今後の交通安全対策では、事故多発箇所の対策に加えて、ヒヤリ・ハット箇所に着目した対策もあわせて進めていく予定です。



地域のみなさまと共に交通安全対策を検討！

- これまで、交通安全対策の検討に際し、現地検討会を開催するなど、地域のみなさまのご意見を対策に反映するための機会を設けてきました。
- 今後も、交通事故（死傷事故）のさらなる削減に向けた対策を引き続き進めていく予定ですが、地域の実情をふまえた適切な対策を講ずるためには、ヒヤリ・ハット情報の提供など地域のみなさまのご協力不可欠となります。
- 誰もが安全に安心して利用できる道路環境の実現に向け、みなさまのご協力をお願いいたします。



【廿日市・大竹地区】

2

ヒヤリマップ

～みなさんから寄せられたヒヤリ・ハット体験を地図にしました～

『ヒヤリ・ハット体験』とは、交通事故になりそうだった体験のことです。

【凡 例】

- ワースト10
- ワースト11～20
- その他

●佐伯区役所

●廿日市市役所

●大竹市役所

順位	路線	地点名	件数
11	R2	大竹市立戸2丁目付近	5
11	R2	大竹市役所付近	5
11	R2	大竹市玖波1丁目付近	5
11	R2	大竹市御園1丁目付近	5
11	R2	大竹インター入口付近	5
16	R2	宮島競艇場付近	4
16	R2	JR宮島口駅付近	4
16	R2	七尾中学校付近	4
19	R2	大竹市小方1丁目付近	3
19	R2	玖波駅前付近	3
19	R2	大竹市北栄付近	3
19	R2	大野町八坂1丁目付近	3
19	R2	大竹市玖波3丁目付近	3

